

ニュースクリップ & 映像教材

■Eスクエア・エボリューション「先進IT活用教育シンポジウムin和歌山」開催

■日本教育工学会第22回全国大会

■「芸術文化振興基金」助成金募集説明会

研究会情報

■Eスクエア・エボリューション「先進IT活用教育シンポジウムin和歌山」開催

(財)コンピュータ教育開発センターでは、平成18年度教育情報化促進基盤整備事業の普及・啓発活動の一環として、学校教育の情報化を基本テーマに、標記シンポジウムを開催する。

〈テーマ〉

「教育の情報化と学びの創造—新たな環境構築とともに」

〈日時〉

平成18年11月2日(土) 9:15～17:00(9:00開場)

〈会場〉

和歌山県立情報交流センター Big-U (和歌山県田辺市新庄町 3353-9)

〈内容〉

○全体会

・基調講演「教育の情報化と

学びの創造」(仮) 赤堀侃司氏 (東京工業大学教授)

・パネルディスカッション「新しい局面を迎えた教育情報化」コーディネーター小泉カー氏(尚美学園大学教授) 他

○分科会「OSP (Open School Platform [OSP] 一学校現場におけるOSS導入実証実験)」 「OSPプロジェクト発表&ミニ討論」「IT活用を巡る課題と取り組み」「子供たちが主人公／広がるICT活用授業」「学校情報セキュリティワークショップ」 他

〈申し込み・問い合わせ先〉

(財) コンピュータ教育開発センター

TEL 03-5423-5911

<http://www.cec.or.jp/e2e/symp/wakayamaprogram.html>

■日本教育工学会第22回全国大会

日本教育工学会では、標記全

国大会を下記の要領にて、開催する。

〈日時〉

平成18年11月3日(金) 10:00～18:20、11月4日(土) 9:30～17:30、11月5日(日) 9:30～16:00 ※受付は開始30分前から。

〈会場〉

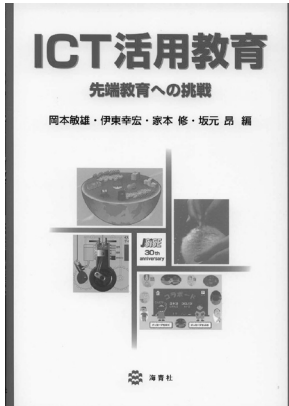
関西大学総合情報学部高槻キャンパス (大阪府高槻市霊仙寺町 2-1-1)

〈内容〉

○シンポジウム「ICT教育とそれを支えるシステム」「社会人の学習環境を創る—e-Learning, OJT, 知識創造をつなぐ教育工学—」「教育の情報化の新戦略にどう対応するか」

○課題研究「新しいICT技術・教育システムの開発に関する研究」「高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究」「教育工学研究・実践研究の体系化

ブックレビュー



「ICT活用教育 先端教育への挑戦」

岡本敏雄、伊藤幸宏、家本修、坂元昂 編
海青社出版 2006年9月刊 B5判
172頁 2,500円(税込)

ICT(情報通信技術)の活用が教育現場に急速に広まっている。本来ICTを活用した新しい「道具」は、教育上のニーズ(Educational Demand)から学習や教育のあり方に関する理論的検討に基づいて導入されるべきであるが、現場では、中には技術先行の導入(Technology Push)「ICTを活用し、新しい機能を使えばこんなことができるから、とりあえず生徒に試して驚かせよう」的な実践や、教員が楽をするための道具になっている実践も見受けられる。

本書は教育の「不易と流行」を再点検し、ICTを利活用した教育活動に関して在り方論から検討し、ICTの活用に関する工夫やその背景にある学習理論や考え方を広く紹介している。掲載されている実際の教育現場で

の活用事例は24事例であり、「通信教育」「学習管理」「教育指導」「情報共有」の分野に整理して紹介されている。これらの事例は、日本教育システム情報学会の「ICTを利用した優秀教育実践コンテスト」で入選した24事例であり、特に最優秀実践である「1万人の既学習者を生み出した『そのダイインターネットキャンパス』」や、優秀賞の「子どもたちの主体的な学びを引き出すPDAを活用した水族館学習」の実践事例は教育的ニーズから取り組まれた実践でTechnology Pushではないことがご理解いただけると思う。

これから教育現場でICT活用を始られる方、ICTを活用した疑問を感じておられる方に読んでいただきたい1冊である。(滋賀大学教育学部教授 宮田仁)

に関する研究」

○一般研究：以下のテーマのセッションを行う。情報教育、メディア教育・メディアリテラシー、生涯学習・企業内教育、遠隔教育・遠隔学習、インターネットを利用した授業実践他

○English Session：国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための機会提供の場とする。

〈申し込み・問い合わせ先〉

日本教育工学会第22回全国大会実行委員会事務局

<http://www.med.kutc.kansai-u.ac.jp/~jset2006/>

AV情報

■「芸術文化振興基金」助成金募集説明会

独立行政法人日本芸術文化振興会では、「すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境

の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化の振興又は普及を図るための活動に対する援助を継続的・安定的に行うこと」を目的に、標記基金を交付しており、平成19年度の助成にあたり、助成対象活動の募集説明会を下記の通り行う。

〈助成の対象となる活動・対象者〉

○芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動

○地域の文化の振興を目的として行う活動

○上記のほか、文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動

〈日程〉

(演劇分野) 平成18年10月3日(火) 13:30~16:30

(音楽・舞踊・伝統芸能・その他分野) 平成18年10月4日(水) 13:30~16:30

(映画の製作活動) 平成18年10月11日(水) 13:30~15:30
※開場は開始30分前から。

〈会場〉

こまばエミナース(東京都目黒区大橋2-19-5)

〈問い合わせ先〉

独立行政法人日本芸術文化振興会基金部芸術活動助成課

TEL 03-3265-6305(映画の製作活動以外)

03-3265-6213(映画の製作活動)

短 信

(財)松下教育研究財団は、下記へ移転し9月4日(月)より業務を開始した。

〒105-0001東京都港区虎ノ門1-1-10第2ローレルビル6F
TELとFAXは変更なし。

文部科学省情報

平成19年度視聴覚教育メディア関係概算要求について 文部科学省生涯学習政策局参事官(学習情報政策担当) 付 参事官補佐 坪内孝治

平成19年度概算要求は「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」を踏まえ、歳出・歳入一体改革で財政健全化の努力を中長期的に維持・強化するとの方針の下、「成長力・競争力を強化する取組」、「安全・安心の確保と柔軟で多様な社会の実現」へ予算配分の重点化・効率化を行うこととされた。

文部科学省所管一般会計概算要求・要望額は、対前年度13.0%増の5兆8,039億円。

参事官(学習情報政策担当)における概算要求内容は、以下のとおり。

①「再チャレンジのための学習支援システムの構築」(新規)
再チャレンジしたい人が、インターネットを通じて、いつでもどこでも再チャレンジに向けた学習ができるよう、学習コンテンツの提供や学習相談等を継続的に実施する体制

(生涯学習プラットフォーム)の構築を支援するため、人材育成や基本管理アプリケーション等の開発・提供を行う。

②「学習情報提供体制充実事業」(新規)
国と地方公共団体、高等教育機関、民間団体等との役割分担を踏まえ、国として提供すべき学習情報を検討・調査することにより、学習情報提供体制の充

実を図る。

③「簡便な手法を活用した情報発信のための調査研究」(新規)
生涯学習施設や学校で、教職員が簡便にWebサイトによる情報発信を行えるような手法を調査・研究し、効果的な情報発信についての普及・促進を図る。

④「地上デジタルテレビ放送の教育活用促進事業」(継続)
2011年には、アナログ放送がデジタル放送に完全移行する計画を受け、学校教育において地上デジタルテレビ放送の効果的な活用方策を開発するためのモデル事業を実施するとともに、成果報告会を開催するなど広報活動を行うことにより、事業成果の普及促進を図る。

⑤「地域における教育情報発信・活用促進事業」(継続)
地域における教育情報の発信を支援するため、地方公共団体等が制作した学習コンテンツの収集や社会的要請に対応した学習コンテンツの制作等を行い、エル・ネットにより全国へ配信することにより、学びを通じた地域再生・まちづくりのための生涯学習機会の拡大を図る。併せて、今後必要とされる情報発信システムの在り方について総

合的な検討を行うための調査研究を実施する。

⑥「教育用コンテンツの活用・促進事業」(継続)
教育的価値が高く、学校教育又は社会教育に利用されることが適当と認められる教育用コンテンツを選定する教育映像等審査を実施し、普及・促進を図るとともに、インターネットを有効・総合的に活用し、教育の質の向上に資する優れた実践事例について顕彰を行うインターネット活用教育実践コンクールを実施する。

さらに、地域・家庭の教育力の低下、問題行動の深刻化等への対応においてテレビ放送の果たす社会的影響の大きいことを踏まえ、民間放送における優良な教育番組の制作の推進・奨励を行うとともに、教育におけるテレビ放送の役割について「国民的な議論を喚起」するためのフォーラムを実施する。

⑦「情報リテラシー育成研究指導」(継続)
学校教育及び社会教育における視聴覚教育の指導的立場にある指導主事及び社会教育主事等に対し、情報リテラシーの育成やマルチメディアの教育利用のための実践的研修を実施する。

平成19年度視聴覚教育メディア関係概算要求額【参事官(学習情報政策担当)】(千円)

事業名	平成18年度 予算額	平成19年度 概算要求額	比較増 △減額
再チャレンジのための学習支援システムの構築(新規)	0	152,404	152,404
学習情報提供体制充実事業(新規)	0	64,062	64,062
簡便な手法を活用した情報発信のための調査研究(新規)	0	25,000	25,000
地上デジタルテレビ放送の教育活用促進事業(継続)	48,712	48,712	0
地域における教育情報発信・活用促進事業(継続)	50,853	50,853	0
教育用コンテンツの活用・促進事業(継続)	278,979	278,979	0
情報リテラシー育成研究指導(継続)	1,137	1,220	83
eラーニングによる人材育成支援モデル事業	172,512	0	△172,512
学習素材のデジタル化連携促進事業	11,033	0	△11,033
地域で子どもを見守る全国ネットワークシステムの構築	50,000	0	△50,000

トピックス

エル・ネット「オープンカレッジ」
地域からの情報発信

エル・ネット「オープンカレッジ」は、今月から、全国5つのコンソーシアムが中心となって収集・制作した学習コンテンツを、発信します。10月・11月にエル・ネットで放送される各コンソーシアムのコンテンツは、以下のとおり。放送日はエル・ネット欄を参照。

●あおもり教育情報発信・活用促進協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
我がふるさとシリーズ(1) 「青森県の山 白神山地」	白神山地の世界自然遺産地域を中心に、原生的ブナ林や四季折々の雄大な風景、核心地域の様子など、普段は目にすることができない映像を紹介し、環境保全について考える。
我がふるさとシリーズ(2) ①北の大地から「七戸地方の米作り」 ②津軽の伝統農具	①青森県七戸町地方の昭和初期の米作りを再現し、機械化以前の稲作について考える。 ②津軽地方独特の農具の製造方法・使い方から、農業の今後を考える。
我がふるさとシリーズ(3) ①幻の鳥オオセッカ ②残された原生花園	①幻の鳥オオセッカを主人公に、自然の大切さを語る。 ②湿原に見られる、残された原生花園としての価値を確認する。

●秋田サテライト学習推進協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
秋田から地球を観察する ー南極大陸との関わりー	アムンゼンらと「未知の世界」南極点到達を競った秋田の白瀬轟。彼の実映像を切り口に、太古から不変の南極の独特な自然現象、生態系の絶妙なバランスを紹介する。
秋田から地球を観察する ー地下水は大丈夫かー	秋田県域の河川流域と地下水の関係を説明し、地下水・湧水と人の共生について考察する。また、秋田県内で実施している人工涵養の成果を示し、水の大切さについて考えたい。
秋田から地球を観察する ー黒鉱が語るものー	秋田県に多産したレアメタルを含有する黒鉱は、成因为世界的に注目され、資源の探査技術は現在も広く応用されている。海底で生成した鉱物資源について解説する。

●金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
森あそびのすすめ	霊長類学者の河合雅雄氏は、『もっと森を楽しもう』とレジャー、教育、文化などの面から、森の活用を訴えている。特に、森が子どもたちの情操教育に役立つ。
今里山で何が起きているのか(上)	竹林の猛威でコナラ林が全滅、またクマが出没する里山。「角間の里山自然学校」の代表・中村浩二教授が、里山を旅する村崎修二さんとの対談も交え、問題提起する。
今里山で何が起きているのか(下)	この身近な自然である里山を、どうすれば本来の姿に戻すことができるのか。過疎の集落で人々が協力し合って里山環境を守る能登半島の事例などを紹介する。

●大阪生涯学習情報コンソーシアム●

コンテンツ名	コンテンツ概要
ボランティア(1) ー企業と社会貢献ー	企業のCSR(企業の社会的責任)に関して、なぜ利益追求の企業が社会貢献活動に取り組むのか、社会にどんな意味をもたらすのか、NPOとの連携の可能性も含めて解説する。
ボランティア(2) ー災害支援と社会貢献ー	NPO、経済界、政府などの協力により、難民や自然災害時の緊急援助を迅速、効率的に行う「ジャパン・プラットフォーム」の活動の歩みから、共働の楽しさと大変さを考える。

●久留米地域参画推進連絡協議会●12月から放送を開始

エイジングと栄養① エイジングと栄養② シニアのための料理ー入門編	シニアのための料理ー実践編 エイジングと運動 未来をつなぐスローフード	食を通じたボランティア
---	---	-------------

◆問い合わせ 文部科学省生涯学習政策局参事官(学習情報政策担当) 付 電話 03-5253-4111(内線 2363・2941)